「日々の理科」（第 435 号） 2015（H27),-9,11

「台風一過の空」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

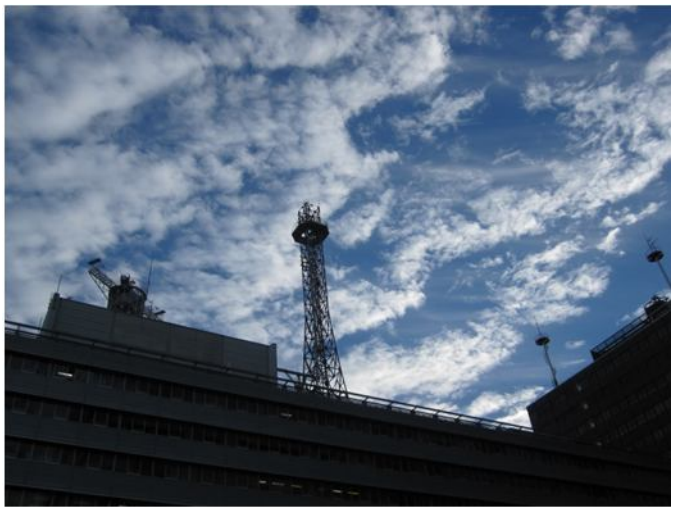
台風本体よりも、その後の線状降雨帯（列積乱雲）が、関東・東北地方に空前の大被害を及ぼした、ここ数日。自然の猛威、河川や堤防の脆弱さ、正常性バイアス（たぶん大丈夫だろう・・・という心理）の恐ろしさ・・・さまざまな教訓を、我々日本人に残した。

私は、江東区の海抜２メートルにある、集合住宅１階に住んでいるが、スーパー台風による高潮（台風津波）によって、床上浸水することがわかっている。今から、何らかの備えをしようと、改めて思った。

しかし、いつも思うことだが、台風一過の空は美しい。さまざまな雲が一度に見られるからだ。

これは「高層雲」のように見えるが、実はもっと高い「巻積雲」である。（大手町で撮影）

これは巻積雲、巻雲、濃密巻雲などが混在した、いわゆる「変化巻雲」である。手前の建物は気象庁。ここ数日の、予報・警報業務で、徹夜続きだったのだろう。早朝なのに、時々疲れ切った職員が、家路についていた。感謝の言葉をかけたかった。



これも巻積雲と膜状巻雲が混在した、「変化巻雲」。高度１万の上層雲なので、通常は動きがゆっくりだが、今日はかなりの速度で動いていた。対流圏上層部は、まだ風が強い証拠だ。鉄塔は気象庁の電波塔。かつては、富士山レーダーからの電波も受信していた。

川の様子も気になった。これは水道橋駅近くの、神田川（遠方）と日本橋川（右手）の分岐点。普段よりもずっと水量が多く、濁っていた。東京の地下には、巨大な雨水タンクや、一時貯水用の地下河川がある。あれだけ降っても、目だった洪水が起きなかったのは、それらのおかげである。今日は、５年の授業で、そういうことも話題にしてみた。